

# No.39

令和5年3月31日発行

編集・発行

## 北斗会 (旧富山商船同窓会)

射水市海老江練合1-2

TEL (0766) 86-5100 FAX (0766) 86-5110

振替口座 〒00720-1-2631 (ホクトカイ)

同窓会HP <https://www.toyama-hokutokai.net/>



写真上 全国高等専門学校ロボットコンテスト  
下 北斗祭

### CONTENTS

- 2 同窓会長挨拶／学校長挨拶

---

- 3 令和4年度 「北斗会」理事会・総会議事録

---

- 4 令和3年度 決算報告／令和4年度 予算案

---

- 5 学内人事／新入会員名簿

---

- 5 特集 学んだ技術を生かして  
陸上エンジニアとして生きた人生・富山商船卒の  
プライドを持って  
『湿式ノイルフト電気集塵機に魅せられて』

---

- 8 支部会だより

---

- 10 同期会

---

- 11 かたふりコーナー

---

- 14 学内トピックス

---

- 16 お知らせ  
名簿の正しい管理のためご協力お願いいたします  
令和4年度 総会・懇親会のお知らせ  
編集後記

## 同窓会長挨拶

### 北斗会会長 玉川 宏(E32)

北斗会会員の皆様におかれましては、日頃より絶大な活動へのご支援を頂き、ありがとうございます。心より御礼申し上げます。

今年度は、猛威を振るったコロナ禍も落ち着いて、少しずつですが日常を取り戻して「withコロナ」という新しいライフスタイル定着した、一年だったのでは無いでしょうか。

北斗会としても6月にはリアル開催となった、理事会／総会を挙げて、久方振りに懇親を深めさせていただいたのは、ご承知の通りです。母校におきましても5月21日22日には4年ぶりの開催となった「第14回高専祭／北斗祭」が射水キャンパスで盛大に行われました。小生も卒業してから初めて、会場に足を運び懐かしくもあり、それ以上に隔世の感この上もなく体験してまいりました。

さて次年度は商船学科系の仲間にとって重要なイベントが目白押しです。まずは弓削商船高専の練習船「弓削丸」起工式、大島商船高専「大島丸」竣工引き渡しと続きます。この後はいよいよ我が母校「若潮丸」の起工に

つながってまいります。新「若潮丸」の竣工は前関東支部長の故土屋先輩が全船協専務理事時代に、関係各所への働きかけをされて、正に心血を注がれて実現した事業と承知しております。偉大な先輩の母校への想いとお志を、しっかりと引き継いでまいります。

また、富山高専同窓会との連携事業の第一番目として、「同窓会名簿」の統一があります。今年度より本郷会（旧富山工業高専同窓会）のメンバーも参加して、ワーキンググループにて、基本設計／委託先など鋭意検討進めてまいりました。次年度の早い時期には「名簿統一」を実現して、富山高専同窓会および北斗会会員や、将来的には現役世代にとって有益な名簿になるよう進めていき、発足間もない富山高専同窓会を強力にサポート出来れば良いと考えております。

引き続き、皆様方のさらなるご支援ご尽力をよろしくお願いいたします。

末筆になりますが皆様方の事業活動のご隆盛とご健康をお祈りして、ご挨拶とさせていただきます。



## 学校長挨拶

### 着任あいさつ

### 富山高専校長 くにえだ よしあき 國枝 佳明

令和4年4月1日に富山高等専門学校校長として着任しました國枝佳明と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

着任して8か月以上が過ぎ、ようやく富山高専のことが少し解ってきたというところです。副校長をはじめ多くの教職員、学生、保護者そしてOBの皆さまに支えられ、今日に至るといった感じです。

富山高専は2009年に富山工業高専と富山商船高専が統合して新たな歴史を刻み始めたところです。そして2019年に統合後の卒業生を中心とした「富山高専同窓会（以下、「新同窓会」）」が発足し、「北斗会」、「ほんごう会」の3同窓会が連携して活動を行います。これからの社会を担う若い卒業生達にとって、先輩諸氏の豊富な経験と深い見識や多様なネットワークは、有益なものであることは間違いありません。新同窓会は、まだ産声をあげたばかりで、その活動も十分とは言えない状況です。長い歴史のある北斗会及びほんごう会の皆さまとの、相互の交流を図るとともに更なる連携を強化し、新同窓会を盛り上げていただきますよう、お願い申し上げます。

我が国企業の競争力強化及び持続的成長を実現するためには、データとデジタル技術を活用したビジネスモデルの抜本的な変革、いわゆるデジタルトランスフォーメーション（DX）が重要です。このDXを担う人材として「数理・データサイエンス・AI」を理解し、活用できる人材が必要であるとされています。これから社会に出る若者にとって、「数理・データサイエンス・AI」の理解は、誰もが身に付けるべき基礎であり、これらの上に電子情報、国際ビジネスや商船などの専門分野の知識や技術があると考えられます。富山高専では、数理・データサイエンス・AI教育に積極的に取り組んでおり、各分野や企業におけるDXの担い手を育てて参ります。しかしながら単なるデジタル人材を育てるのではなく、しっかりとコミュニケーションがとれ、他者への思いやりも備えた人材を育てて参りたいと考えています。そのために実社会との繋がりには欠かせません。北斗会の皆さまと連携し、社会に役立つ真のデジタル人材の育成に努めて参りたいと思います。どうぞ、引き続き皆さまのご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。



# 令和4年度 「北斗会」 理事会・総会議事録

日時 令和4年6月4日(土)

場所 富山電気ビルレストラン

## 議案

議案1：令和3年度会務報告(佐々木)

承認

議案2：令和3年度会計報告(水谷)

承認

議案3：監査報告(田近)

承認

議案4：令和4年度活動予定(水谷)

承認

- ・令和5年度理事会・総会開催日 令和5年6月3日(土) 決議
- ・会長所信説明「北斗会の仕組み作りを強化する」(玉川)

議案5：令和4年度予算案(水谷)

承認

議案6：本部・支部提出議案

### －1、役員人事

承認

監査	N63 田近 茂樹	退任
	E 32 野村 誠	新任
富山支部	N68 西田 千秋	新任
関東支部	N73 早坂 伸也	退任
関西支部	N66 青木 薫	退任
新潟支部	N61 古川 隆	退任
	E 45 金子 秀一	新任
	N75 姉崎 誠	新任

事務局長	E 30 佐々木 正	交代	E 35 水谷淳之介
会計	E 35 水谷淳之介	交代	NE13 経田 僚昭

### －2、学科の呼称の統一について(水谷)

従来の学科呼称、N、E、NE、I、D、Kを継続していくか、現在学内で使用されている新呼称S、DI等を加えるかを今年度の課題としたい。

### －3、ホームページの現状と将来の展望についての説明(高崎)

### －4、「北斗会」の運営に関する試案の説明(東北支部 富山)

会長、支部長、事務局の三役会議をリモート会議からリアル会議にしては？  
\*出張経費等を考慮すると難しいと思われる(会長)

### －5、「創立120周年記念事業」の有無について(関東支部 長谷川)

\*学校側からの動きもないので、今は何も考えていない(会長)

議案7：協議事項

### －1、事務局の強化についての説明(会長)

\*専任事務局員として佐々木氏を雇用契約して事務局を強化していきたい。

強化の内容としては、卒業生の名簿管理を業者依頼などの方法の変更、展示室にある貴重な資料の保存作業、本部と各支部及び同窓生との連絡対応を強化する。

### －2、「北斗会」と「富山高専同窓会」の今後の動向について(水谷)

\*今後の会費収入の減少に伴う出張費、会議費、支部通信費等の支出金の見直しが求められることが予想される。

### －3、その他

- ・玉川会長と長谷川関東支部長が「全船協」の理事に立候補した。
- ・学生課から「若潮丸」アポロキャップを頂いたので、希望者に進呈します。
- ・「船歌集」DVDの在庫があるので、希望者は事務局まで申し出てほしい。



理事会

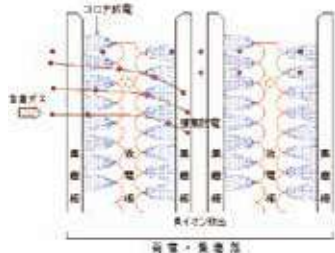


総会

滾る歳だったので、家族の事も忘れ即断即決してしまっ  
た。

ここで電気集塵機について基本を述べる。+極の集塵  
極と-極の放電極がケーシング内に対峙し、直流60kv・  
50kvの高圧電気を放電極に印可すると、コロナ放電が  
起こりマイナスイオン電子が集塵極に向かって発生する。  
この状態にダストを含む燃焼排気ガス等を導くと、ダ  
スト粒子はイオン電子と衝突しマイナスにチャージされ、  
電気的にはマイナスダストになりクーロンの法則に従い  
集塵極に付着し集塵される。下記に集塵原理図を示す。

主な用途としては、石  
炭・重油炊き発電所の  
排気ガス処理、都市ゴミ  
焼却炉排気処理、バイ  
オマス発電所排気処理、  
各種ボイラ排気処理や  
非鉄金属工場、製鉄工  
場、セメント工場などで  
広く使われている。



転職先はエルデックと言う産廃処理・最終処分場・環  
境測定等を生業としている地場企業の新規事業部門で、  
ノイルフト電気集塵機を設計・製作・設置・性能保証す  
る、エンジニアリングであった。小生には何の知識もな  
いので発明者博士の言われたままに図面を書き、製作管  
理・お客様立ち会い検査・現場据え付け・試運転調整  
を行った。しかし初期の乾式電気集塵機はなかなか性能保  
証を達成出来ず、改造の改造を行い最終的には撤去と言  
う惨めさを味わった。

発明者博士には性能のバックデータがなく、根拠のな  
いサイジングを我々に指示・指導していた事が失敗の主  
原因と分かった。

丁度この時期に元日本ABB・電気集塵機技術部長の  
○井氏が当社顧問に就任され、一から基本に戻ってバ  
ックデータ取得のテスト機を製作し、現場工場ラインから  
少量の生ガスを導入し、フィールドテストを行う指導を  
受けた。約2年間各工場の実負荷テストを行いそのデー  
タを解析し、ノイルフト電気集塵機の固有バックデータ  
を持つ事ができ、やっと根拠があるサイジングが出来るよ  
うになった。

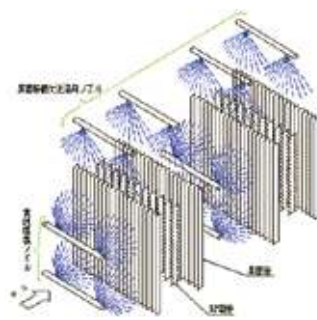
○井氏は東京商船大機関科卒の方で、当時日本では最  
高の電気集塵機オーソリティーの一人であった。この出  
合いが湿式ノイルフト集塵機誕生に繋り、○井氏からの  
指導のお陰で一人前の電気集塵機エンジニアとして歩  
事が出来る様になったと思う。○井氏には感謝しかない。

当時の電気集塵機の世界では乾式が主流で、高電圧  
の電極に水をスプレーする考えは無かったし、正常運  
転は出来ないと考えられていた。

○井氏から湿式にすると参入出来る業種が増え其処  
に発展の扉が開くのではとの意見があり、早速手元にあ  
ったコールドテスト機を改造し、水を噴霧しての荷電テ  
ストを行い機内流速10m/sでもトリップしないで運  
転出来る事を掴んだ。それから集塵極縦長さデータ採取  
や、極間距離データ採取などを行い実機への段階を一歩  
一歩確かめて行った。

上記に湿式ノイルフト電気集塵機の構造図を示す。

特徴としてスプレーは集塵極天井に設置し、集塵極を



洗浄しながら集塵できる  
構造にし、性能劣化を防  
ぐ事が出来る。また集塵  
ユニット全面にもスプレ  
ーを配置し電極空間をミ  
ストで満たし、高抵抗ダ  
ストでも性能高く捕集出  
来る構造とした。一般的  
に高抵抗ダストは捕集が  
難しく逆電離を起こし再

飛散を繰り返すので性能が上  
がらない。しかし湿式にす  
る事でダストは水ミストに  
囲まれ見掛け状ダスト抵  
抗値は水と同じになり集塵  
し易くなる。集塵極を洗  
浄する方式なので再飛散  
が起らず性能を維持出来  
る。

此により湿式・洗浄式電気集塵機はノイルフト電気集  
塵機しか存在しなく、大手電気集塵機メーカーとバッテ  
ングしない業界へと駒を進めることが出来た。

下記に東北にある非鉄製錬に納入した湿式ノイルフト電  
気集塵機の写真を2ケース示す。



↑微量・微細重金属ダスト捕集用  
最終WEP

←硫酸回収用縦型WEP

湿式電気集塵機販売の手法は、お客様のプロセスライ  
ンから少量の生ガスを小型湿式電気集塵機に導き、実負  
荷のフィールドテストを実施し性能測定結果を報告書に  
まとめ、プレゼンするスタイルを執った。このため超微  
細で高抵抗ダスト例えば、シリカSiO<sub>2</sub>が混じる排気を高  
効率で除去する様を、実際にお客様が確認できるので成  
約に繋がった。この様なやり方で非鉄製錬・セラミック  
工場・化学工場・半導体工場・ソーラーガラス工場・希  
少金属回収工場・貴金属工場などお客様が増えて行った。

最大の思い出は世界的重工業会社フランスのアルスト  
ムとのパテント委譲話で、スケールダウン電気集塵をス  
ウェーデンのKarishamn発電所重油炊きボイラ排気にて、  
性能確認試験をアルストムエンジニアと一緒にを行い、高  
サルファ重油と低サルファ重油2種類の性能データを解  
析し、世界静電気学会に論文を投稿しオーストラリア  
シドニーでの世界大会で講演発表した。もちろん現地  
にはアルストムのエンジニアが行き、小生は論文作成時  
のERDEC DESIGNの電気集塵機基本構造説明や特色・  
性能保証データの解析等を担当した。

右記に実証機の写真を示す。

また海外での失敗談は、基本データ取得前に東欧スロ  
バキアとチェコのエンジニアリング会社に技術供与契約  
をした事である。目論見としては今後西側と同じ様に排  
ガス規制が行われ、電気集塵機の需要が多いに見込まれ、



実証機全景



**INVESTIGATION OF AN ESP BASED ON ERDEC DESIGN  
AFTER AN OIL FIRED BOILER**

**ANDREAS BÄCK<sup>1\*</sup> AND KJELL PORLE<sup>1</sup>,  
HITOSHI TOMIYAMA<sup>2</sup>  
KJELL NOLIN<sup>3</sup>**

<sup>1</sup>ALSTOM Power Sweden AB, P.O. Box 1233, SE-35112, Växjö, Sweden  
<sup>2</sup>ERDEC Co. Ltd., 1-55 Matsumi-Cho, Sakata-City, 998-0073, Japan  
<sup>3</sup>Karlshamn Kraft AB, P.O. Box 65, SE-37421, Karlshamn, Sweden

\*Correspondence to: andreas.back@power.alstom.com

**ABSTRACT**

The by far most commonly used type of electrostatic precipitator for both power and industrial applications is the conventional parallel plate duct type ESP. In the early 1990's a novel variant of ESP electrode systems, resulting in a completely different layout of the internals, was developed in Japan. This so called ERDEC design has alternating collecting and discharge electrodes in the gas direction with the discharge electrodes having a multitude of extremely sharp corona points while the collecting plates are short and densely spaced. A number of these ESP's have previously been installed in Japan for some smaller industrial applications and have shown satisfactory performances. These units have worked at smaller volumes and lower treatment times of the gas than is usually the case for conventional ESP's, hence implying a cost efficient design.

This paper describes the installation and testing of a two-field ESP based on ERDEC design after a 12 MW<sub>th</sub> oil fired auxiliary boiler at Karlshamn Kraft AB in Sweden. The oil has a sulphur content of 2.1 % and gives a very low inlet particulate loading with a large fine fraction. The corresponding outlet particulate emissions after the ESP have been measured at 1-2 mg/Nm<sup>3</sup>. Also low sulphur oil, which gave much higher inlet dust concentrations of mainly unburnt content, was investigated. The emission for the low sulphur dust was dominated by dust re-entrainment during rapping. Rapping losses are known to be a major problem for ESP's dealing with large unburnt particles from oil firing. The main findings are that the ERDEC design performs well from a precipitator point of view, and that the reduced footprint and casing volume that could be achieved deserves further attention.

論文ヘッダーに小生の名前

大手電気集塵機メーカーがまだ参入していない穴場なので、此処から世界に打って出る絶好の地域と判断した。性能が同じなら既存システムの電気集塵機より1/4小さく出来るノイルフトは無敵と考えたが、やはり根拠無きサイジングによる弊害が大きく、どの現場も性能保証を満足出来なかったので結局撤退するに至った。失敗はしたがスロバキア・チェコ人の感覚が日本人と近く、今でも交際を続けているエンジニアと巡り会えたのが財産である。日露戦争でロシアを破った有色人種日本をリスペクトしており、とても親日的で日本の技術をとても高評価していた。彼らはロシア人とドイツ人が大嫌いでもある。

最後にアイデアでしか無かったノイルフト電気集塵機を、コールドテスト・ホットテストを繰り返し基本データを地道に数年掛けて執り、湿式にする事で既存の電気集塵機では絶対捕集出来ないプロセスで性能保証が出来る、湿式ノイルフト電気集塵機を完成させた事が技術者冥利に尽きる。

陸上でエンジニアとして生きる事が出来たのは、俺はあの富山商船を卒業したのだと言う、不思議なプライドがあったからだと思う。また何の根拠も無いが富山商船出である事を自分の心中に刻み続ける事が出来たからだとも言える。

11年前に退職し現在は夫婦で小さなカフェを営んでいる。美味しいランチと美味しいコーヒーが売りで、夫婦仲良くたまには喧嘩しながら地域のマダム達に憩いの場を提供している。



ギャラリー喫茶フレンド外観



店内雰囲気と看板ランチ



# 支部会だより

## 北海道支部



北海道支部はメイン行事となる支部総会がコロナ感染者の高止まり傾向で開催に漕ぎつけず、支部活動状況をお伝えできないのが現状ですが、支部長（佐々木義隆 E36期（昭和54年卒）64歳）が個人的な活動において孤軍奮闘しておりましたので、その活動の一部をお伝えすることにします。



R4年度北斗会本部総会にあわせ、数十年ぶりに母校の練谷テニスコートに立ち、二日間後輩OB及び現役と練習試合を行った。テニスコートに立ち寄る前にはテニス部顧問だった故留岡先生のお墓にお参りし、この地で学んだテニスが人生の糧になっていることを報告出来た。富山訪問期間中も絶やさず練習が行えたこともあり、この後に行われた北海道テニストーナメント60歳シングルスで優勝することが出来た。



もう一つは、50代後半で始めた昆虫の竹細工ですが、北海道美術作家協会が主催する第54回「道美展」に三作品を初出展したところ、三作品とも入選し、そのうちオオカマキリとオオスズメバチが対峙する題名「にらみあい」が奨励賞を受賞しました。

## 関西支部

関西支部ではこのところ大人数対面での活動ができていませんでした。

今年は4年ぶりに神戸港カッターレース大会の開催が決定し、本校卒業生もチームで参加予定ですので、この機会に対面での交流を再開します。

昨年、支部理事会を貸会議室にて行い好評でしたので、今年は理事会、総会を神戸市の会議室にて行い、その後、別会場にて懇親会を開催します。

総会のみ、懇親会のみのご参加も大歓迎ですので幅広い年代の卒業生に参加していただければと思います。懇親会、納涼会等は決まり次第メール、ハガキ等でご連絡いたします。

関西支部長 金山 聡

### <活動報告>

開催を予定していた2022年関西支部総会は中止。

- 1) 2022年5月28日 関西支部理事会開催（神戸）
- 2) 2022年6月4日 支部長本部総会出席（富山）
- 3) 北斗会支部長会議（リモート）出席

### <活動予定>

- 1) 2023年5月14日（日曜）  
神戸港カッターレース大会開催  
本校卒業生チーム出場予定。レース応援、慰労会開催。
- 2) 2023年5月27日（土曜）16:00~17:30  
関西支部理事会及び支部総会（神戸中央文化センター10階会議室）  
（議題）収支報告、理事の異動、今後の会の運営について。  
総会后、別会場にて懇親会開催。
- 3) その他、納涼会、懇親会等を開催予定。

## 東北支部

1. 令和4年11月 第9回東北支部・両羽会総会開催
2. 令和5年1月 理事会・新年会開催
3. 令和5年6月3日 本校北斗会総会 出席予定
4. 令和5年8月 理事会・暑気払い開催
5. その他 理事会・三役会等については適時開催
6. 令和5年9月 第10回東北支部総会案内状発送

### 第9回富山商船両羽会 第4回合同総会開催報告『再会』

昨年、令和4年9月6日に東北支部臨時三役会が開かれ、総会の開催に関して検討が行われ、北斗会東北支部と秋田、山形及び近隣の県に在住されている方が会員となっている両羽会の合同総会を行う事が決まりました。

感染症の影響もあり数年ぶりとなる総会は、令和4年11月12日に山形県鶴岡市三瀬にある網元の宿「旅館仁三郎」にて開催されました。

総会には宿泊者14名、懇親会までが1名の計15名が参加しました。

今回は遠路遙々関西から6期の小田嶋氏、高澤氏が2期の館氏に会う為に参加されました。

夕方からの総会開催を到着された皆様にお伝えし、早く到着した方から旅館内の温泉を楽しんで頂く事が出来ました。その後、一番広い部屋へ皆さんが集まり冷えたビールを飲みながら、昔を懐かしむ話やお互いの現況報告などを行いながら総会、懇親会の開催前が大盛り上がりでした。

総会では、北斗会東北支部富山支部長より諸々の議題、本校総会への出席、両羽会活動などをご報告して頂きました。

引き続き懇親会が始まり、富山支部長と両羽会會田会長よりご挨拶、乾杯、参加者の方々より自己紹介、近況報告が続きました。

東北支部千田事務局長より送って頂いた返信ハガキから今回都合が合わずにご参加頂く事が出来なかった方々約30名様のごコメント、近況報告も参加者の皆様に読んで頂く事が出来ました。

懇親会では、旅館が経営している定置網、由良港の底引き網魚船が水揚げした多くの魚介類を地元風の料理で楽しんで頂くと共に、参加者の方が御持参された

秋田と宮城の銘酒を皆さんに美味しく召し上がって頂きました。

懇親会が終了した後も同じ部屋に戻り、再び夜中近くまで皆様が集まり夜中近くまでビール、日本酒を楽しみながら昔話、肩振りが続いていました。

参加者の皆さんが懐かしい方と再会され、最後まで楽しい一夜を過ごす事が出来たのではないかと思います。

5期の佐藤氏が剣道部先輩の1期小嶋氏に40数年振りにお会いになり感激されたエピソードも合わせてご報告致します。

両羽会事務局 N70、9期 和田 廣善



敬称略

最後列：田澤 5期N66, 小田嶋 6期N67, 菅原13期N74

後列：富山 4期E32, 高澤 6期N67, 中田 2期N63,

夏井 6期N67, 佐藤 5期E33, 遠藤 9期E37

中列：高橋 2期N63, 仲川 2期N63, 館 2期N63

前列：小嶋 1期E29, 會田 専攻科N58

## 新潟支部

令和4年度の新潟支部総会はコロナ禍で残念ながら開催できませんでした。

5年度につきましては北斗会総会（6月3日）に合わせ、5月中旬に支部総会をおよそ4年ぶりに開催したいと考えております。

尚、長谷川関東支部長からの情報といたしまして第

49回『戦時徴用船遭難の記録画展』が8月29日から9月10日まで新潟市『りゅうとびあギャラリー』で開催されるそうです。因みに本会の運営は長きにわたり大先輩田中善治様が尽力されていると聞いております。

新潟支部長 小坂 徳夫

## 関東支部

### 富洋会（関東支部ゴルフコンペ）第68回大会ご紹介

2022年9月18日 開催場所：千葉県市原市 ブリック&ウッドクラブ

関東支部の富洋会では毎年恒例の春・秋のコンペを開催しております。

今回は秋開催致しました第68回大会をご紹介致します。今大会は富洋会の故土屋前会長の1周忌を偲んで、馴染み深いブリック&ウッドクラブで、富山から北斗会 玉川会長もご参加頂いて、12名での開催となりました。開催にあたりましては、富洋会故土屋会長奥様、北斗会 関東支部 長谷川会長、富洋会 柴田会長及び関係各位からのお力添えを頂きまして、まずはお礼申し上げます。

当日は台風14号の接近で天候が不安定でしたが、土屋前会長の奥様もスタート前のご挨拶にお越しになられ、前回優勝の尾崎さんの始球式の後、小雨のなか各組スタート致しましたが、前半中盤までは小雨で収まっていた天候も、次第に断続的に雨が強まり、ハーフ終了時点で残念ながら、天候不良により中止となりました。

悪天候のなかでハーフまでで中止とはなりましたが、ケガ等もなく無事にラウンドを終え、プレー後の表彰式を交えての懇親会では、土屋前会長は奥様曰く、かなりの

雨男だったとのことでこのコースでは以前も雨が多かったことを思い出して妙に納得する場面もあり、終始和やかに歓談頂きまして、第68回大会を終了致しました。

（参加者）\*今回はハーフで中止のため順位なし。  
柴田富洋会会長（N64）、玉川会長北斗会会長（E32）、今野様（E26）、香林様（N66）、仁多見様（E31）、仁多見様奥様、栗山様（N74）、栗山様奥様、兵頭様（N77）、小林様（NE13）、尾崎様（NE38）、佐伯（N78）

また、今回は天候不良によりハーフで中止となってしまいましたので、急遽、同コースで12月17日に仕切り直しの第68R大会開催が決まり、リベンジすることになりました！

富洋会では毎年春・秋に恒例のコンペを開催しておりますので、若手、ベテラン、初心者、上級者を問わず、皆様のご参加をお待ちしております。

第68回幹事 N78期 佐伯 信雄



## 同期会

### 富山商船高専4期 箱根嶺南荘 四交会開催報告

開催日：2022/12/3~4（土・日）

去る令和4年12月3日（土）・4日（日）に、神奈川県箱根にある船員保険・センプスの宿嶺南荘にて、2年間コロナで開催延期になっていた東京担当の四交会を。集まりたい者限定で開催いたしました。

実は今年も開催延期に決定しておりましたが、幹事高柳氏の温情的配慮から参加したい者この指止まれ式の、やさしいお誘いメールがあり、上記9名から参加表明があり開催の運びになりました。

遠方からの参加は、函館・寺尾氏と酒田・富山氏で、東京週末切符等を使いJRで東京駅に着き、銀の鈴で島田氏と久木氏と落ち合い現地に向かいましたが、都会を忘れた不慣れな老人2人は新幹線に乗れない状況になりました。

JR東日本の周遊切符を持っていた2人は、小田原までの新幹線特急券を購入し、勇んで自動改札に向かい

ましたが、機械に拒否され入場出来ず。理由が理解できない2人は途方に暮れました。流石国交省出の寺尾氏が気づき会社が違うこの券では乗車出来ないのでは、新たに乗車券を購入し事なきを得ました。現役時代では絶対のない珍事で、これは歳を取った証拠と言わざる得ません。4人は珍道中の末箱根嶺南荘に無事到着し、やさしい高柳氏の出迎えを受け指定された部屋に無事着くことが出来ました。

美肌の湯アルカリ性でやさしい温泉に先ずはゆっくり浸り、一緒になった旧友達と昔話に花を咲かせ、一気にこの温泉がタイムスリップして寮の丸い大きな浴槽にいる感覚になり、オイ・オマエの気兼ねのない同期の姿になりました。

大食堂での夕食は全て美味しく、他のお客様方も多数居られましたので、其処は商船士官のスマートさと紳

私は、富山商船高等専門学校に赴任することになり、1983年4月から富山での生活をスタートさせるためにトヨタハイエースに生活道具を積み込んで家族で姫路からやってきた日が昨日のこのように思い出されます。当時はまだカーナビゲーションは無く、地図をたよりに来ましたが道に迷い、見知らぬ人に尋ねたところ、田んぼの向こうに小さく見えている望楼の付いた建物を親切に教えてくれました。ようやく本校に到着し、1986年5月に結婚するまで、3年間生活することになる商船高専12-1号宿舎に入りました。朝はパンとコーヒー、昼と夜は寮の食堂で食事をさせて頂きました。寮の食堂には大変お世話になり感謝しています。

少し時間を戻して、私が何故本校に赴任することになったのかについてお話しさせて下さい。寄り回り波研究の第一人者である富山商船高専の故吉田清三先生（2010年12月29日逝去）は、1981年12月に海上保安庁のビーチクラフト機から寄り回り波を観測していた時、富山沿岸域に沿岸から沖合へ向かう長周期の波が存在しているのを発見し、カメラで撮影しました。そして、何故この様な波が沿岸域に存在しているのか不思議に思い、その写真を持って世界で初めてスペクトル法による波の予測モデルを開発した研究者の一人である神戸商船大学の井上篤次郎教授を訪ねましたが、篤次郎教授もその長周期波の発生メカニズムについては分かりませんでした。その時、篤次郎教授の指導の下、大学院修士課程の学生として波のスペクトル解析をしていたのが私（旧姓:加藤）でした。本当は神戸商船大学に残りたかったのですが、それはダメで富山へ行って波の研究をするように言われ本校へ赴任することになりました。私の恩師が求めた「寄り回り波が押し寄せている時に沿岸域に存在する長周期波の発生メカニズムの解明」は困難を極め、私は人生をかけてこ

の問題に取り組むことになるのですが、この時は全く分かりませんでした。

また、話は変わりますが、波や気象については石森繁樹先生がおり、私は波の研究をするために来たのですが、天文航海学を教えていた松井教授の後任として採用されたため、天文航海学の授業を担当する必要がありました。研究内容と教育内容が異なっており問題もありましたが、その点については大目に見て頂けることとなり、早速、石森先生に「富山湾に学会」等の勉強会に誘って頂き、波の研究を始めました。富山県のみならず新潟県や秋田県の漁業協同組合の事務所を訪ね、その地域のうねり性波浪の呼び名や特性について聞き取りをしたり、寄り回り波が押し寄せている時にカメラやビデオで波の撮影をしたりしましたが、江戸時代に何故うねりに「寄廻り高波」という名称が付けられたのか？、何故、20分～30分周期で大きい波が押し寄せるのか？等々、とにかく分からないことだらけでした。そんな時、1987年2月19日に我が国初の地球観測衛星1号（MOS-1）が打ち上げられ、石森先生の提案により1987年4月から1989年3月までMOS-1衛星検証計画（MVP:MOS-1 Verification Program）に参加して衛星データを用いて海洋観測を行うことになりました。さらにその後、1992年1月～1994年3月までJERS-1/ERS-1システム検証計画（JERS-1/ERS-1 System Verification Program）に参加することになりました。そして、1993年3月18日に石森先生が当時の宇宙開発事業団地球観測センターに電話し、ERS-1の合成開口レーダで富山湾に侵入した寄り回り波の波峰線を画像として捉えることに成功しました。その画像をスペクトル解析して、波長約200mの波が、北北東と北東の2方向から富山湾に侵入していることが分かりました。波が北東から富山湾に侵入するためには、佐渡島の上を通過して秋田湾の方からやってくる必要があ

士然した態度で、品良く軽い笑いと少々のお酒を嗜み終えました。

部屋に戻っての二次会は打って変わった状況となりました。各自お酒とつまみを持参しており、先ずは小田原で買った久木氏愛飲のシャンパンで乾杯し、モルトウイスキーやスコッチウイスキーや地元日本酒等勢揃いとなりました。

段々時間と共にメーターが上がり、心地よい雰囲気が出た。二乗・三乗に酔いを増進し、金子氏の引き出しが沢山あるトークに盛り上がり、爆笑と共にジェスチャーも最高潮になりました。特にテストのキャンニング話での金子氏と楠本氏の掛け合いが絶妙で、後ろの楠本氏に金子氏が答えを見せるのくだりでは、みんな腹を抱えて大笑い。また、終盤では寺尾氏と西山氏の酔っぱらいトークで、軽いど突き合い漫談が炸裂しました。丁度9名と言う少人数の為、みんなが話を共有出来る楽しい宴会となりました。

翌朝の帰る時、参加者で集合写真撮影となり、ドローンが趣味の島田氏が腕前を披露し添付の写真

となりました。また、幹事高柳氏の提案で次回四交会は、パリオリピックの年に富山で開催することを決定致しました。

E富山 記



E島田氏ドローン撮影より

参加者：右側より N斎藤・E島田・N金子・N高柳・N西山・N寺尾  
E富山・N久木・N楠本

り、寄り回り波は能登半島と佐渡島間で生じた対馬海流の渦によって右へ約30°カーブして侵入していることが分かりました。さらに、江戸時代の古文書に記載された「寄廻り高波」は、沿岸域におけるうねり性波浪の性質をそのまま名称にしていることに気が付きました。

また、話が変わりますが、MOS-1衛星検証計画に参加していた時に、小川眞司氏（当時の宇宙開発事業団地球観測センター）と話をすることがあり、衛星の軌道計算に関する勉強をすることを勧められました。早速、衛星軌道計算に関する資料を送付して頂き、勉強を始めました。そして、1989年2月27日に東京郵便貯金会館で開催されたMOS-1衛星検証成果報告会の懇親会で、三菱電機鎌倉製作所で衛星軌道計算の仕事をしていた研究者と話をし、鎌倉製作所を見学させて頂くこととなりました。鎌倉製作所は人工衛星を製作しており、衛星軌道解析の研究者から衛星軌道解析の研究をするのであれば、国立天文台長の古在由秀氏の教養を請う必要があることを教えて頂き、1990年5月から10ヶ月間、国立天文台へ内地留学し衛星軌道解析の研究をすることになりました。古在先生から、MOS-1ではなく静止衛星の軌道解析を勧められ、当時の宇宙開発事業団から技術試験衛星V号（ETS-V）の観測距離データを入手して解析したところ、衛星までの観測距離と計算距離の差（O-C）が、約12時間周期で変動していることが分かりました。その後、当時の通信・放送機構君津衛星管制センターから通信衛星3号（CS-3a,CS-3b）の観測データを入手し、6月や12月頃の観測データを用いて軌道解析すると、O-Cが約12時間周期で変動していることが確認できました。ただし、春や秋の観測データを使用するとO-Cが大きくなり変動してしまい、約12時間周期の変動をうまく検出することはできませんでした。O-Cの約12時間周期の変動については、地面（観測局の位置）が約12時間周期で数m揺れていけばうまく説明できるので、「地面が約12時間周期で数m揺れている」とする仮説を立てて、東京海洋大学で学位取得を目指しましたが、12時間周期で数m揺れているという決定的な証拠の提出を求められ、結局、学位取得を断念しました。

この結果、私は教授になれませんでした。本校の石原外美校長から教授にする代わりに、波の研究で富山大学博士（工学）を取得することを求められました。博士を取得するには、観測の他に実験またはシミュレーションをする必要があると指導されました。波の観測は2011年から海象計メーカーとの共同研究で毎

米国地球物理学連合（American Geophysical Union）のニュースレターで紹介された寄り回り波

年冬期に行っていたので、港湾空港技術研究所の造波水槽を用いて実験を行うことにしました。実験を行ったところ、浅瀬域にうねり性波浪が侵入すると浅瀬域で数分周期の波が生じることが確認でき、ようやく本校に赴任した時からの課題を解決することができました。また、この長周期波によりうねり性波浪が長周期波の周期でビートすることも実験で確認することができ、富山湾沿岸には約30分周期の波が存在していることは波浪観測により分かっていたので、寄り回り波がこの波の影響を受けて約30分周期でビートし、その結果として約30分周期で大きい寄り回り波が沿岸に押し寄せることも分かりました。これにより、2017年3月に富山大学で学位を取得し、2017年4月から非常に遅くなってしまいましたが、教授に昇進することになりました。何よりも恩師から頂いた課題を、退職直前ではありましたが解決できたことを大変うれしく思っています。文章が長くなってしまいましたが、課題の解決には観測と実験が必要であることを教えて頂いた石原外美校長、そして、富山高等専門学校の皆様に心から感謝して筆をおきたいと思えます。富山高等専門学校の皆様、本当にどうもありがとうございました。



## 還暦を迎えて

卒業から約40年、還暦を迎えサラリーマン生活もいよいよ最終章に差し掛かってきましたが、その大半をノルウェーに本社をもつタンカー用カーゴポンプメーカーの営業マンとして費やすこととなりました。1984年に航海科を卒業しましたが、当時の状況は日本人海上職の求人が極端に少なく、また自分の成績も相まって、入学時に志した航海士への夢を諦めざるを得ませんでした。

商船高専航海科13期 佐藤 重雄

た。いわゆる“陸に上がった河童”でした。

その後は多少の紆余曲折を経て大手商社系の船用機械販売会社に就職することとなり、そこで出会ったのがノルウェー製のタンカー用カーゴポンプでした。一口にタンカーといっても、原油を輸送する30万トン級のVLCCから500トン以下の貨物輸送に従事する内航タンカーまで、その用途に応じて多くの種類のタンカーが

存在します。ウクライナ問題で改めて注目されることとなったLNGタンカーや次世代燃料として注目されている水素やアンモニアなどの液化ガスを運搬する船もタンカーの仲間です。脱炭素が世界的なテーマとなっていますが、石油由来の液体エネルギー輸送はもうしばらく続くことになりそうです。

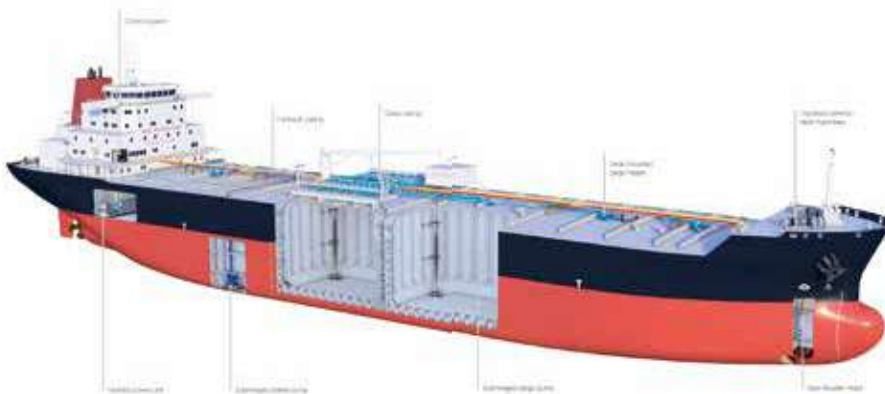
我が社のカーゴポンプが通常取り扱うことができる液体は、常温常圧の精製された石油製品（ナフサ、ガソリン、軽油、ジェット燃料等）及びさらに精製が進んだ石油化学製品（各種ケミカル製品）です。とくに石油化学製品は精製の段階が進むほどに多岐にわたる製品が生産され、同時にそれぞれの生産量は小さくなっていきます。これら少量ながら多くの種類の製品を同時に運搬するために、沢山の数（16～24タンク、多いものでは40タンク以上）のステンレス製カーゴタンクを備えたタンカー（ケミカルタンカー）が存在します。各タンク内にカーゴポンプが設置され、すべてのカーゴタンクに異なる種類の製品を積載することができるような構造になっています。それら多品種小ロットの製品を別の製品からの影響を受けること（コンタミネーション）なく安全に荷役することがケミカルタンカーの最大の使命です。また、揚荷役のあとは毎航海カーゴタンクをクリーニングして別の製品を積載します。

新造船のときからスクラップされるまで一生同じ製品しか積載しないVLCCやLNG船とは全く違うコンセプトで運航され、その建造隻数も決して多くないケミカルタンカーですが、運搬される製品は一般消費財の原料となる場合が多く、今日の身の回りにある数多くの商品に関わっています。

振り返ってみると、この仕事を長年続けることができた一番の理由は、新しい船が建造される

際に造船所への納入業者でありながら、かなり早い段階からその案件に関わる機会があることです。その後のやりとりを経て自社の製品が納入され、建造船が無事竣工に至る長い過程に立ち会えることは仕事冥利に尽きません。仕事を始めた当初は、航海科出身であるがゆえに機関室内の状況にも疎く、乗船履歴もないことから実際のタンカーの荷役やその後のクリーニングの詳細もわかりませんでした。加えて、運搬される（ポンプが取り扱う）石油製品の特性など皆目見当もつきません。しかしながら、一緒に仕事をさせて頂いた船会社や造船所の皆さんが右も左もわからない若造の素晴らしい先生であり続けてくれました。これは還暦を迎えた今日でも変わりません。とかく狭い世界といわれる船社会ですが、いまではそこで知り合った皆さんとのつながりが宝物になっています。

15歳で目指した船乗りという夢は叶えられませんが、人生の大半において船に関わることができたことはなによりでした。最近の船舶業界は新しいルール絡みや脱炭素、ひいてはESG関連まで取り組むべき課題は山積しています。余生を迎えるまでのもうしばらくの間は自分なりに新しいものへのチャレンジを続けていきたいと思っています。



## 久しぶりの掲載です

NE29 高野 陽丞

しばらく会っていない同期生から突然LINEが届いて同窓会会報の投稿文を書いてほしいと言われ筆をとっています。

私の経歴は、富山商船高等専門学校を卒業後東京水産大学に編入学し、卒業後は港湾会社へ入社し退職後、神奈川県警に再就職し現在に至っています。

高専時代は主にカッター部に所属し、潮風と汗にまみれながら青春を謳歌していました。同校卒業するも就職する心構えはまだ持てず、それならと東京水産大学に編入学しました。同大学では空手道部に所属し、多くの蹴り突きと多くのお酒を浴びながら時を過ごしました。

大学卒業後半年ほど何をするわけでもなくブラブラしていると、すでに港湾会社でバリバリ働いていた商船の同級生から連絡があり、その友人の紹介で同じ港湾会社に就職。そこでは素敵な先輩方から多くのことを学び、社会人として貴重な経験を積むことができたが、自己都合により2年で退職することになりました。その後は、神奈川県警に再就職し、妻と子二人

と楽しく過ごしながら、地域の安全を守っています。

現在の勤務地は山間部に属しているため、週末は多数の登山客で賑わっていますが、そのため登山中に負傷し道に迷う者も少なくなく、そのたびに山岳救助に向かっています。多くの山岳遭難は暗くなった頃に通報が入るので、真っ暗闇の山の中を草木をかき分けて進まなければならず救助する側も危険が伴いますが、それでも無事発見救助できた時は身体全体でやりがいを感じることが出来ます。

とまあ、このように私は学生時代に船や海のことを学びながら、現在は畑違いの警察官となり、海とは正反対の山間部で仕事をしており、我ながら一見なんとも遠回りの人生にも思えます。しかし、商船時代に経験した遠洋航海を思い出すと、飛行機で行けば数時間のところを、幾数日もかけて行くことで多くの景色を見ることができ、貴重な経験を得ることができた事を思えば、人生遠回りも悪くはないのかなと思う日々です。

# 学内トピックス

## ■ 商船学科卒業証書授与式

令和3年9月27日、射水キャンパス第2体育館にて、令和3年度商船学科卒業証書授与式を挙行了しました。商船学科39名へ卒業証書が手渡され、國枝佳明校長が一人一人に証書を手渡し、「5年半で学んだ能力を発揮し、明るい未来を切り開くことを確信している」と告辞がありました。続いて、在校生代表の商船学科4年天明昂さんから送辞を受け、卒業生を代表し、商船学

科の中野慎司さんが、「本校や大型練習船で習得した知識や技術、経験を生かし、社会に貢献できる人材に成長する」と誓いました。式の最後に卒業生達は、登壇礼の儀式ならって「ごきげんよう」を三唱した後、制帽を宙高く投げる伝統の別れのパフォーマンスを行い、本校での学生生活を締めくくりました。



卒業生・修了生代表答辞



登壇礼

## ■ 令和4年度卒業証書・修了証書授与式

令和5年3月10日(金)、富山県芸術文化ホール(オーバード・ホール)において、令和4年度卒業証書・修了証書授与式が挙行されました。射水キャンパスから電子情報工学科42名、国際ビジネス学科39名、制御情報システム専攻14名、国際ビジネス学専攻4名、海事システム工学専攻1名が卒業・修了しました。今年度は在校生も出席し、人数も制限されない中での実施となりました。卒業式後、富山高専同窓会会長の稲積左門会長より同窓会活動の説明が行われました。



卒業生答辞

## ■ 新任教員あいさつ

田嶋 雄太

2022年4月より本校国際ビジネス学科の教員として着任しました、田嶋雄太です。私は、2013年3月に本校を卒業後、名古屋大学へ進学し、大学卒業後は人材広告会社の営業職として6年間勤めました。その後、学生時代にお世話になった恩師よりご縁をいただき、今年度より教員として母校での新しいキャリアをスタートしたところです。

本科では「商学概論」や「マーケティング論」といった商学分野の科目を担当します。

これらの授業においては、営業職として働いた中で培った実務経験を活かし、働く現場のリアルな部分に

触れられるような、より実践的な学習体験を提供することを目的としています。それを達成できてこそ、私本科の教員としていただける価値だと感じています。

実は、民間企業で働く以前より、教職への強い関心と憧れを抱いていました。それは学生時代から口にしていたことで、そのおかげで此度のご縁をいただけたと言っても過言ではありません。しかし、本校卒業後すぐに教職に就けなかったのは「自分自身が社会の中に身を投じたことがないまま、学校という空間を出ずに教員になると、これから社会に巣立っていく学生に適切な教育を施せるのだろうか」という葛藤があっ

たからです。特に自分は、教職にしか目が向いていなかったあまりに、世間知らず社会知らずになっているという懸念がありました。それならばと、土壇場で進路の舵取りを変更し全く未知だった民間企業に飛び込んでみたのです。そして、その決断は功を奏しました。ビジネスの最前線で用いられる知見や手法、戦略にじかに触れ、また「顧客（相手）のニーズを追求すること」の大切さを学んだことで、自分が教員として伝えたいこと、学んでほしいことの枠組みが構築されました。そうして学生時代抱えていた葛藤が晴れると同時に、再び教職に就くチャンスを得ただけなのです。

「大好きな母校で、憧れの教員になる」というぜいたくな夢を叶えさせていただいたので、次に私がしたいことは「次代に紡ぐこと」です。私がこれまで経験して得られたものは、もはや夢を叶えるために消費す

るものではありません。次の世代の、未来ある子供や地域のために紡ぎ、還元していくためのものです。

末尾となりますが、富山高等専門学校が、迫りくる新しい時代の荒波を超え、まだ見ぬ新世界へと渡っていきけるよう、微力ながらその動力になればと思います。新米教師を、どうぞよろしくお願いいたします。



## ■ 海事教育キャリアセミナー

NE12 池野 一成

1. 海事教育キャリアセミナー
2. 2022年12月16日
3. 射水キャンパス 総合メディア教室
4. 一般財団法人エンジニアリング協会 技術部  
春田 三郎 氏 航海学科7期
5. 講演内容

「海技士の魅力と学生時代に行って欲しい事」

- ・海技士のお仕事
- ・一般社団法人 日本海事検定協会のお仕事
- ・LNGのお仕事
- ・国際規格の開発について
- ・出会いとチャレンジについて
- ・コミュニケーションについて
- ・リーダーシップについてetc

今回は商船学科1, 2年生を対象として学生が海技士の魅力を知り、自身の将来像を描きやすくするための趣旨で実施されました。主な講演内容については、上記に記した通りです。とくに講演で話されていた「海技士として勤務していた時に言われ心に留めている言葉（以下に記載）」や「船乗りの現場はドキドキ感では

なく安全第一」や「コミュニケーションについて」のお話など船乗りである私としては印象に残りました。

- ・15マイルで2°
- ・避ける時はしっかり赤灯を見せよ
- ・サインをもらう時はペンを用意せよ
- ・荷物の下に入るな
- ・ハッチコーミングの上に立つな
- ・責任者と交渉しろ
- ・部屋にこもるな
- ・他の人が当直中はブリッジに行くな
- ・自信のないことはするな

コミュニケーションについてのお話を聞き、私が意識できていなかったことで、コミュニケーションが少なかったことや、目的や伝える力が不適切であったことを認識でき非常に反省しました。また、二酸化炭素の回収・貯留（CCS）という話しも聞くことができ勉強になりました。1, 2年生にとってはこれから実りある人生を生きていく為のきっかけとなる講演であったと感じています。私も今回の講演会を思い出し良い生き方ができるように努めていく所存です。



令和4年度

# 総会・懇親会のお知らせ

日時

令和5年6月3日(土)

14:00～ 理事会  
17:00～ 総会  
18:00～ 懇親会

場所

富山電気ビルレストラン

〒930-0004 富山市桜橋通り3番1号  
TEL:076-432-4111

懇親会費

5,000円(女性3,000円)

(令和4年9月、令和5年3月に卒業した)  
会員は無料

※準備の都合上、出席の有無は5月10日までに同封のはがきでお知らせください。

## 同窓会事務局へご連絡ください。

同期会の開催などの同窓生近況をご連絡ください。また、お住まいの地域にて、どの同窓会支部へ連絡したら良いか、支部総会に参加したいが連絡をどこへしたら良いか、など支部や支部活動に関するご相談もお気軽にお問い合わせください。

連絡先

北斗会(富山商船同窓会)事務局

〒933-0293 富山県射水市海老江練合1の2

〒933-0293 富山高等専門学校内

## 北斗会名簿の正しい管理のために ご協力をお願いいたします

年に一度配布しております北斗会会報ですが、発送先の差し戻しが多いため住所変更などの直近の情報提供にご協力願います。住所等の変更があった方は、総会の出欠ハガキの裏面にご記入いただき、郵送いただきますようよろしくお願いいたします。

令和4年度定期総会・懇親会のお知らせ

令和4年度の定期総会・懇親会は下記の日程で開催致します。

日時	令和5年6月3日(土)
	14:00～ 理事会
	16:00～ 総会
	17:00～ 懇親会
懇親会費	5,000円(女性は3,000円)
場所	富山電気ビルレストラン 〒930-0004 富山市桜橋通り3番1号 TEL:076-432-4111 FAX:076-432-4110

出欠の有無を5月10日までにお知らせ願います。

総会	出席	・	欠席
懇親会	出席	・	欠席

ご氏名	N・E・NE・S・D・I・K
	期
ご住所	〒
TEL	
ご勤務先	

●住所等に変更がある場合、チェック☑を入れて下さい。→☐変更有り

こちらに記入

## 北斗会HPについて

ホームページ URL : <https://www.toyama-hokutokai.net/>

会報のバックナンバーも順次掲載中です。スマートフォンからもアクセスしやすくなっています!気軽にアクセスください!

住所変更等の問い合わせについてもページ内のお問い合わせフォームにて受け付けております。(受付後、改めてメールにてご連絡する場合があります。)



↑QRコードはこちら

HPへの広告バナー掲載も募集中です!



## 編集後記

編集後記を書いている時は2月も終わりに近く月日が経過するのは早いと改めて感じております。今年の干支は「卯癸」です。「卯癸」は停滞した世の中に希望が芽吹き、花開く助走の年であります。今まで積み重ねてきた自身の力が試される年でもあり、最後まで希望を持ち続けることで道が開かれます。コロナ終息が間近でありますので希望を持って前進していこうと思います。学校イベントとしましては、本年2月、本校主幹で第6回高専・海事教育フォーラムが神戸国際会議場での対面及びハイブリッド形式で開

催されました。出席されたOBの方から教職員の熱意が伝わってきたなどのお言葉を頂き大変励みになりました。令和4年度の北斗会事業活動については、本会の主イベントである総会の対面開催が3年振りに開催できました。総会に出席頂いた皆様に深く感謝致します。同窓会報では学校や皆様の活動の様子を少しでもお伝えしていこうと思います。支部会や同期会など会員の皆様が活動されたことがありましたら、その時の様子を同窓会事務局までお寄せ下さい。皆様の投稿・寄稿や様々なご意見心よりお待ちしております。宜しく申し上げます。(NE12 池野 一成)